

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 7 月 31 日現在

機関番号：35309

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25380820

研究課題名(和文) 社会福祉分野におけるスピリチュアルな側面を鑑みたアセスメントツールの開発

研究課題名(英文) Development of an assessment tool in view of spiritual dimensions in the social welfare field

研究代表者

岡本 宣雄 (NOBUO, OKAMOTO)

川崎医療福祉大学・医療福祉学部・講師

研究者番号：40412267

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、福祉サービスを利用する高齢者に対し、福祉専門職が福祉現場で実際に活用できるスピリチュアルアセスメントのツール開発であった。

本研究は、「生活モデル」の考え方を基盤に据え、高齢者が生活上で体験するスピリチュアリティの内容とその機能について、文献研究、実地調査、実証的研究から分析しこれらを考察した。その結果から、高齢者の日常的スピリチュアリティとこれらを捉える説明図式・理論：「時間×関係×価値」を提示した。そして、これらを参考に、本研究で、高齢者の日常的スピリチュアリティの内容と特徴を構造的かつ体系的に捉え、スピリチュアルアセスメントを可能とする「3次元プロット図」を作成した。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research was to develop tools for spiritual assessment that welfare professionals can actually use at welfare sites for the elderly people using welfare services.

In this research, based on the idea of "life model", we analyzed the contents and functions of spiritualities experienced by elderly people in their lives from literature review, field surveys and empirical research. Based on the results, the daily spirituality of the elderly and explanatory diagrams / theories that capture these spiritualities are presented as: "time × relationship × value". Then, with reference to these, a "three-dimensional plot diagram" which makes spiritual assessment possible by grasping the contents and features of the daily spirituality of elderly in a structured and systematic manner was created.

研究分野：高齢者福祉

キーワード：スピリチュアリティ 高齢者 アセスメントツール

1. 研究開始当初の背景

社会福祉実践の目標が「生きがい」や「自己実現」の支援であるといわれるなか、支援の基盤である高齢者の人間固有の存在の意味や価値にかかわるスピリチュアルな課題を福祉専門職が捉えきれずにいる現状がある。

スピリチュアルアセスメントは、1970年代以降、欧米を中心に各専門分野で開発が進められ、自記式質問紙を用い、クライアントのスピリチュアリティを数量的に評価するもの、クライアントに半構造化面接を実施しその内容を分析するもの、さらにクライアントの物語（ナラティブ）を傾聴、観察しその内容を解釈するものと多様である。現在、医療分野で患者を対象としたアセスメントツールの開発が進められている。しかし、それを実際に活用した実践報告は少なく、そのツールの使用がもたらす効果を評価する研究も見ることがない。今後、スピリチュアルアセスメントが社会福祉実践において実用化されるための「指針」（ツールの目的と使用手引書）、「実践ツール」（質問の様式、項目、内容等）を示していく必要があった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、介護福祉サービスを利用する高齢者に対し、福祉専門職が福祉現場で実際に活用できるスピリチュアルアセスメントのツール開発であった。本研究では、スピリチュアリティを「人間の普遍的な特質であり、自己、他者、超越的なものとの関係のなかで、生きる意味を見出す生の側面である」（岡本 2017）と定義し、それまでの、要介護高齢者におけるスピリチュアルニーズやアセスメントの研究史を踏まえ、次のことを本研究の目的とした。

- (1) 高齢者における「生活上のスピリチュアルな課題」（Spiritual well-being: 「霊的安寧」、Spiritual pain: 「霊的な苦痛」等）を明示する。
- (2) 「生活上のスピリチュアルな課題」の分析と考察からスピリチュアルアセスメントを実施する際に必要な具体的なスピリチュアリティに関する項目を抽出する。
- (3) (1)(2)を踏まえ、高齢者の社会福祉実践においてそのアセスメントが実用化されるための指針と実践ツールを作成する。

3. 研究の方法

(1) スピリチュアリティの概念の研究(文献研究)

医療での臨床や福祉現場におけるスピリチュアリティの理解、スピリチュアルケアに関する国内・国外の研究論文や実践報告などを参考に、スピリチュアリティの概念の解釈および分析を行い、スピリチュアリティの概念モデル、および、スピリチュアリティを捉える理論的枠

組みを明らかにする。

(2) 高齢者の生活上で体験するスピリチュアリティの研究(実証的研究)

老人デイサービスセンターと有料老人ホームの高齢の利用者を対象に、実証的研究(質的研究)を実施した、この分析結果の考察から、日本人による日常のスピリチュアリティの内容と、これを説明する理論的枠組み(説明図式・理論)を提示する。

(3) スピリチュアルアセスメントのツールの作成に向けた研究作業

本研究は、この研究の基盤に「生活モデル」の考え方を据える。この観点から、上記(1)(2)で明らかにされた、高齢者のスピリチュアルな特徴と内容の結果を参考に、スピリチュアルアセスメントのツールとしての様式化に向けた研究作業を行う。

4. 研究成果

(1) スピリチュアリティの概念に関する研究

本研究の理論的研究から、アセスメント項目の前提となるスピリチュアリティの概念の本質と機能を構造的理解から明らかにすることができた。

スピリチュアリティの本質的理解

スピリチュアリティの研究に蓄積があるキリスト教の歴史と思想を背景とし、「スピリチュアルの意味」について、聖書テキストの考察により試論を展開した(梶原 2014)。これと関連したかたちで、『オリゲネスの祈禱論』の研究を通じ、「祈り」(prayer)に着目し、人間が超越者である「神」とつながり、対話し、永遠なるものを希求する、人間の本質としてのスピリチュアルな側面(spiritual dimensions)の考察を深めることができた(梶原 2017)。

スピリチュアリティの機能的理解

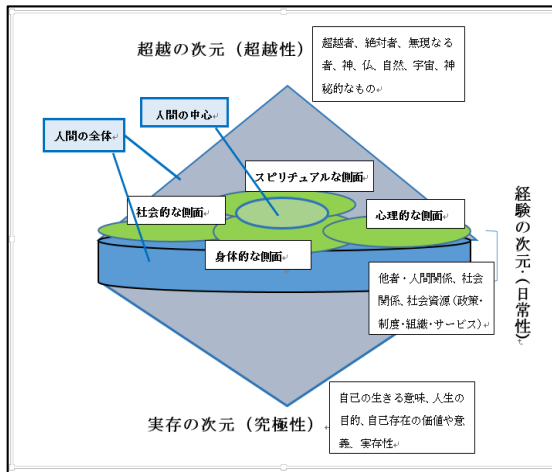
福祉分野におけるスピリチュアリティとそれに配慮した支援の内外の研究史のレビューから、スピリチュアリティの下位概念である「生きる意味」と、その機能としての「意味探究」について考察した(岡本 2013)。

福祉分野におけるスピリチュアリティの概念の研究

本研究では、を踏まえ、福祉分野、特に、ソーシャルワークにおけるスピリチュアリティに関する研究史を考察した。ソーシャルワークにおける対人援助の哲学に関する考察から、ソーシャルワークの価値を議論の際、人間の特質であるスピリチュアリティの視点が重要である(滝口 2014a)。そこで、本研究でスピリチュアリティの構造的な概念モデルを試論した。この文献研究から、スピリチュアリティの構造的な概念モデルとして、「超越の次元(超越性)」と「実存の次元(実存性)」、「経験の次元(日

常性)」の3層から成る「スピリチュアリティの概念の構造」を表わした(岡本2016)。

図1 スピリチュアリティの概念の構造



出典：岡本重雄(2016)第6章「スピリチュアリティの視点とソーシャルワーク」p.72を一部改変

(2) 福祉現場におけるスピリチュアリティを鑑みたケアの現状(海外視察)

ドイツ・スイス・ディアコニー事業団(岡本・梶原：2016年4月25日~5月8日)

ドイツ・スイス・ディアコニー事業団の高齢者介護施設、病院にて、スピリチュアルアセスメントの実態調査、大学・専門学校のスピリチュアルケアの教育内容の実態調査を実施した。

Lazarus Haus Berlin は、ディアコニー事業団のドイツ・ベルリンにおける中核的な働きをする高齢者介護施設である。当該施設の管理者、ソーシャルワーカー、牧師、ディアコニッセ(女性職員)にスピリチュアルケアの意義と現状、ケアの実態についての聴き取りを行った。キリスト教を背景としたスピリチュアルケアの各専門職の意識と役割についての情報を得ることができた。

Diakonische Gemainschaft Nazareth(ドイツ・ビーレフェルト)は、ドイツのディアコニー事業団が運営する「ベートル」(医療・福祉・教育の地域共同体)に属する医療・福祉分野の専門職養成する専門学校である。ここでは、医療・福祉の専門職に従事する者が、キリスト教を背景とするスピリチュアルケアに関する科目を履修し、全人的な(holistic)ケアを目指していく、その教育課程と講義内容について説明を聞き資料収集を行うことができた。

Stiftung Diaconis Wohnen-Pflege Beivor und Villa Sarepta(スイス・ベルン)では、高齢者介護施設、ケア付高齢者住宅の視察から、高齢利用者の生活実態ならびに課題についての情報を得た。本施設では、スピリチュアルな歴史のツール(Spiritual history tools:スピリチュアルな歴史の語りを引き出すアセスメントの手法)のうち、「HOPE」(Hope・Organized・Personal・Effects)が使用されていた。本研究を進めるうえでの重要な資料

を入手することができた。なお、本視察の成果は、日本の場合との比較において、雑誌論文:「ディアコニー事業団に関する国内の研究について」に投稿しまとめた。(梶原, 岡本2015)

韓国の高齢者福祉会館・病院・老人ホーム等での研修(滝口:2017年3月20日~23日)

平澤市を拠点として、ヨンコンマール施設、付属病院、付属老人ホーム、付属保育園において見学を行った。本施設は、仏教系施設であったが、特に利用者に宗教的な儀式や行事に参加させることは無かった。しかし、理事長はじめ幹部職員は熱心な仏教徒であり、各施設には仏像があり、信心深く祈りを捧げている場面もあった。

ヨンイン市を拠点として、ヨンイン市高齢者福祉館、ヨンイン市敬老堂見学を行った。高齢者福祉館では、大規模な建物にいくつもの活動メニューが用意されており、地域に居住する高齢者は福祉館に集い、音楽、書道、PC等、多様な活動を行っていた。

ソウル市を拠点として、高齢者就労福祉支援センター施設を見学した。韓国は年金制度の確立が遅れており、定年退職後の高齢者の生活を支える収入においても同センターの社会的意義が認められた。

以上、現地調査の結果をもとに、次年度以降の科研継続研究において、スピリチュアルな視点と援助計画並びに関連するアクティビティおよび福祉レクリエーションの視点からスピリチュアリティに配慮した支援の必要性について考察を試みる。

(3) 高齢者が日常で体験するスピリチュアリティに関する研究

高齢者のSpiritual Well-Beingの概念の位置づけとその特徴

文献研究を通しスピリチュアルな存在として生きる高齢者像を把握するため、高齢者のSpiritual Well-Beingを取り上げ、心理的な見地より考察し、この内容を類型化し構造的に捉え、この概念の特徴について検討した。その結果、高齢者のSpiritual Well-Beingには、「意味への充足と応答」が内容として含まれることが示唆された。高齢者のSpiritual Well-Beingは、意味探求の対象(究極的な他者、他者や自然、自己)との関係、人生という連続する時間のなかで、高齢者が超越的な存在として自身の生を肯定した状態として理解し得ることが明らかになった。そして、Spiritual Well-Beingを「Spiritual Well-Beingは、自己、他者、自分より偉大な存在との結合により、連続した時間のなかで、人生の窮状においてもなお、意味が与えられ、自らの人生を肯定する人間の生の側面である」と定義付けた。本稿のSpiritual Well-Beingをめぐる高齢者の実像に迫る考察と構造的理解は、生活課題に直面した高齢者の実像を把握するアセ

スメント票の開発に有益であった(2013 岡本)。

高齢者が生活上で体験するスピリチュアリティの特徴

本研究は、「高齢者が生活上で体験するスピリチュアルなテーマに関する研究 - 生きる意味に焦点をあてた質的研究 - 」と題した探索的調査として実証的研究(質的研究)を実施したものに分析を加え、高齢者が日常で体験するスピリチュアリティの特徴と内容を明らかにした。分析方法は、定性的(質的)コーディングを用いた。そして、分析の焦点をスピリチュアリティの機能である意味探究とした内容分析を行った。その結果、6つのカテゴリー:【人生の出来事乗り越えてきた】【ただ平凡に人間らしく生きたい】【超越的なものにつながる】【死に思いを馳せる】【有限な存在として生きる】【責任を果たして生きる】と、これらに関連する23のコードが抽出された。

分析結果は、従来の理論では説明がつかないため、村田理論や実存分析の理論に批判を加え、日常のスピリチュアリティを捉え説明する理論的な枠組みとなる**説明図式・理論:「時間」×「関係」×「価値」**(「×」は掛け合わせを意味する)を提示した。この枠組みを活用し、高齢者が生活上で体験するスピリチュアルな痛み、意味の充足を促すストレングスとして機能するスピリチュアリティをアセスメントできる可能性を示唆した(岡本2015)。

(4) 日常的スピリチュアリティのアセスメント表の作成と活用

スピリチュアルアセスメント:3次元プロット図の提示

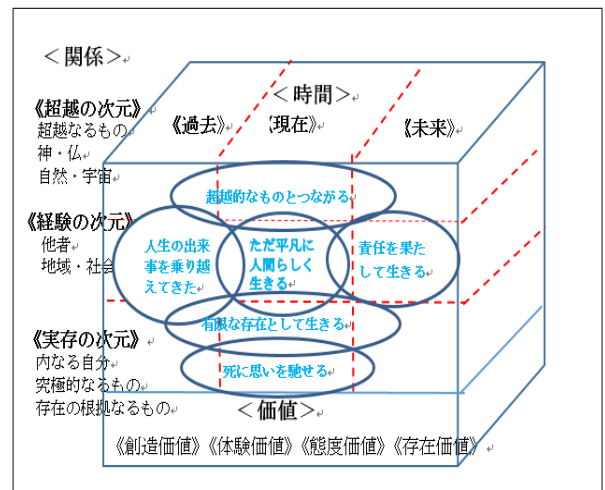
日常的スピリチュアリティに配慮した支援のアセスメントは、全人的な視点から利用者の心身の状態、社会関係の状況、そして、スピリチュアルな側面を把握するケアマネジメントにおけるアセスメント(事前評価)の段階である。福祉専門職はそこで把握した情報から利用者の生活障がい、ストレングスを導き出し、それらを生活ニーズに置き換え、支援計画の目標を立案していくのである。

そこで、人はスピリチュアルな存在であり、生きる意味を探究する機能を有しているとの人間理解から、利用者に対する生活支援に向けたアセスメントの場面でスピリチュアルな側面が考慮され、アセスメント項目として認知される必要がある。しかし、福祉専門職はスピリチュアリティの用語は知っていても、この概念やこれに配慮したスピリチュアルケアの実際についての理解は十分でない。

このことから福祉分野での生活支援の視点より、高齢者が日常で体験しているスピリチュアリティを捉えるア

セスメント表の作成とその活用が期待される。そこで、本研究で上述した、「図1 スピリチュアリティの概念の構造」および、「高齢者が生活上で体験するスピリチュアルなテーマに関する研究」(実証的研究:質的研究)の研究結果を参考に、アセスメント表の基礎となる3次元プロット図を作成した(図2 スピリチュアルアセスメント:3次元プロット図)。

図2 スピリチュアルアセスメント:3次元プロット図



出典:岡本直雄(2017)学位論文・博士(医療福祉学),p.155.

3次元プロット図の活用

3次元プロットの活用に際して、まずは、この図上に、高齢者の日常での語りや言動の内容を考察した事項を「関係×時間」の軸に置いてみる。次に、抽出された各カテゴリーを参考に、これらの文脈を考慮し、意味付けの領域である「価値」の観点から生活上の出来事や事柄を解釈してみる、このような活用が期待できる。

以上のことから、高齢者の語りや言動に含まれる事象や事柄を、マトリックスの構造を念頭に置き、それぞれの要素を組み合わせ考え、プロットすることにより、事柄の交点や相互の関連の有無や度合いが把握でき、高齢者が日常で体験するスピリチュアリティの内容をアセスメントの一助とすることができると考える。今後の作業は、このスピリチュアルアセスメント:3次元プロット図の実際の活用を見据えた「実践ツール」(質問の様式、項目、内容等)の様式を作成することである。

(5) 研究成果と今後の課題

本研究は、福祉分野でのスピリチュアルアセスメントのツール開発を目指した。本研究は、「生活モデル」の考え方を基盤に据え、高齢者が生活上で体験するスピリチュアリティの内容とその機能について、文献研究、実地調査、実証的研究から分析しこれらを考察した。その結果、高齢者の日常的スピリチュアリティとこれらを捉え

る説明図式・理論：「時間×関係×価値」を提示することができた。そして、これらを参考に、高齢者の日常的スピリチュアリティの内容と特徴を構造的かつ体系的に捉えることを可能とする、3次元プロット図を作成した。以上、本研究は、上記の研究成果から、スピリチュアルアセスメントツール開発の進展に寄与できたのではないかと考える。併せて、福祉現場でツールとして実際に活用可能な具体的な様式の作成が今後の課題である。

5. 主な発表論文等

(共著、編著書のみ、研究代表者ならびに研究分担者には下線)

【雑誌論文】(計7件)

小藪智子, 竹田恵子, 白岩千恵子, 村松百合香, 實金栄, 岡本宣雄 (2016) 「高齢者のスピリチュアリティをとらえるための枠組み」『臨床死生学』21(1), 1-11, 査読あり。

岡本宣雄 (2015) 「高齢者が生活上経験するスピリチュアルなテーマに関する研究 - 生きる意味に焦点を当てた質的研究 - 」『川崎医療福祉学会誌』25(1), 37-47, 査読あり。

梶原直美, 岡本宣雄 (2015) 「ドイツ・ディアコニー事業団に関する日本国内の研究について - 」『川崎医療福祉学会誌』25(1), 1-12, 査読あり。

梶原直美 (2014) 「『スピリチュアル』の意味 - 聖書テキストの考察による一試論 - 」『川崎医療福祉学会誌』24(1), 11-20, 査読あり。

滝口 真 (2014b) 「糸賀一雄の福祉哲学 - キリスト教福祉と井深八重との比較を通して - 」, 糸賀一雄生誕100年記念論文集『生きることが光になる』糸賀一雄生誕100年記念事業実行委員会研究事業部会糸賀一雄生誕100年記念事業実行委員会(滋賀県健康福祉部), 査読あり。

滝口 真 (2014a) 「ソーシャルワークにおける対人援助の哲学に関する考察 - ソーシャルワークの価値とキリスト教思想の視点より - 」『キリスト教社会福祉学研究』46, 12-24, 査読あり。

岡本宣雄 (2013) 「高齢者のSpiritual Well-Beingの概念の位置づけとその特徴」『川崎医療福祉学会誌』23(1), 37-48, 査読あり。

【学会発表】(計6件)

岩本裕子, 滝口 真, 末森尚美, 岩本昌樹, 岡本宣雄 「特別養護老人ホームにおける障害高齢者への余暇活動歴に焦点をあてた支援の実施 - 個別支援計画策定と援助実践の視点より - 」第28回日本看護福祉学会学術大会, 2015年7月4~5日、産業医科大学(福岡県北九州市)

滝口 真 (シンポジウム) 「アクセシビリティなレクリ

エーション環境を目指して」九州レジャー・レクリエーション学会 平成26年度大会, 2015年2月22日~23日, 福岡大学(福岡県福岡市)

滝口 真 「ソーシャルワークにおける障害高齢者への援助に関する一考察 - A-PIE プロセスとスピリチュアリティの視点より - 」九州レジャー・レクリエーション学会平成26年度大会, 2015年2月22日~23日(福岡大学)

岡本宣雄 「福祉サービスを利用する高齢者の『死生観』に関する一考察」第20回日本臨床死生学会, 2014年11月29日~30日, 川崎市産業振興会館(神奈川県川崎市)

梶原直美 「古代キリスト教における死生観 - 現代の日本への示唆を求めて - 」第19回日本臨床死生学会, 2013年12月7日, 政策研究大学院大学(東京都中央区)

優秀発表賞(第21回日本臨床死生学会大会 2014年度)を2015年11月に受賞する。

岡本宣雄 「スピリチュアルアセスメントの概念モデル化に向けた一考察」第19回日本臨床死生学会, 2013年12月7日, 政策研究大学院大学(東京都中央区)

【図書】(計2件)

梶原直美 (2017) 『オリゲネスの祈禱論 - 「祈りについて」を中心に - 』教文館, 330頁。

岡本宣雄 (2016) 第6章 「スピリチュアルケアの視点とソーシャルワーク」, 熊谷忠和, 長崎和則, 竹中麻由美編 『多面的視点からのソーシャルワークを考える - 研究と実践をつなぐ新たな整理 - 』晃洋書房, 66-76頁。

【その他】(計1件)

岡本宣雄 (学位論文・博士・乙第28号: 医療福祉学) 『介護福祉サービスを利用する高齢者の日常的スピリチュアリティに関する研究』川崎医療福祉大学大学院, 2017年3月14日, 209頁。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

岡本 宣雄 (OKAMOTO, Nobuo)
川崎医療福祉大学・医療福祉学部・講師
研究者番号: 40412267

(2) 研究分担者

滝口 真 (TAKIGUTI, Makoto)
西九州大学・健康福祉学部・教授
研究者番号: 20258635

(3) 研究協力者

梶原 直美 (KAJIHARA, Naomi)
関西学院大学・教育学部・准教授
研究者番号: 90310680